（資料⑤）

平成１９年１１月１９日
京阪電気鉄道株式会社

「平成の京阪 鳥瞰図（浪華・京・近江）」を制作しました

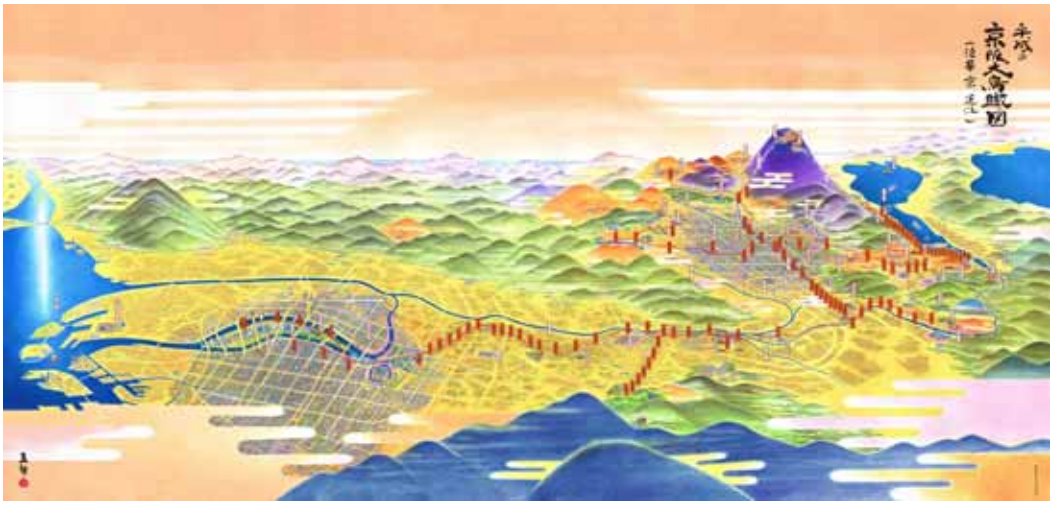
京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪市中央区、社長：上田成之助）では、昨年の会社創立１００年を機に、さらに価値ある京阪グループの創造を目指し、京阪グループ経営ビジョン『“選ばれる京阪”への挑戦」を発表しました。それにあわせて、京阪沿線を中心に今後広がりゆく京阪エリアをイメージし、上空から俯瞰したパノラマ絵図「平成の京阪 鳥瞰図（浪華・京・近江）」の制作に取り掛かり、約１年の期間をかけてこのたび完成に至りました。鉄道案内の路線図、イベント時の背景デザインや様々なグッズの図柄などに幅広く利用していくことにしているほか、観賞用として六曲一隻の屏風（縦１７６ｃｍ×横３６０ｃｍ）も製作し、今後駅構内などに展示する予定にしています。

「平成の京阪 鳥瞰図（浪華・京・近江）」には、現在の鉄道路線はもとより、来年秋に開業する中之島線や、それにあわせて変更される京都エリアの新駅名が既に盛り込まれているのに加え、大阪から京都、琵琶湖に至る街や自然、名所、観光地、レジャー施設等、沿線の魅力が細かく描写されています。さらには、広がりゆく京阪エリアを象徴するべく、西は瀬戸内海、関門海峡から北九州エリアまで、東は富士、東京からその先をも遠望する壮大なパノラマ図となっています。

京阪グループは、鉄道事業を基盤として、バス・不動産・流通・ホテル・レジャーなどの事業を複合的に展開し、快適な生活環境を提供することで社会貢献を目指す企業グループです。「平成の京阪 鳥瞰図（浪華・京・近江）」では、安全を最重視し、沿線地域と密着した「蟻の視点」を細かい描写と暖かくぬくもりあるタッチによって、長期的なビジョンを持ち周囲を見渡す「鳥の視点」を、その技法によって表現しており、その両方をあわせ持つ経営の実践に取り組んでまいります。

「平成の京阪 鳥瞰図（浪華・京・近江）」は別紙の通りです。

（別　紙）



―「平成の京阪 鳥瞰図（浪華・京・近江）」―
※アクリル水彩画による

作者紹介

（１）氏　　名　　村上五朗（むらかみ・ごろう）氏
（２）生年月日　　昭和１３年５月２５日生　（６９歳）
（３）職　　業　　絵師（水彩画）
（４）略　　歴　　昭和３６年～独学で水彩画を始める
昭和５５年　上方絵師１６人衆展
平成６年　　京都洛中絵図　屏風制作
平成７年　　鳥取市立わらべ館壁画制作
など

（５）主な作品　　昭和５６年　ポートピア博覧会ポスター
昭和６３年　瀬戸大橋開通記念ポスター
など

（参　考）

今回制作した「平成の京阪 鳥瞰図（浪華・京・近江）」は、神戸ポートアイランド博などのポスターを手がけた画家の村上五郎氏に制作を依頼し、大作への挑戦となりました。当社では、開業まもない大正２年（１９１３年）にも、当時としては画期的な鳥瞰図による沿線案内図「京阪沿線の名所図絵」を、まだ無名だった吉田初三郎氏の筆により制作。関西を行啓中の皇太子殿下（後の昭和天皇）が目に留められ、数部持ち帰られたのをはじめ、大変な評判を呼び、全国の鉄道会社などがこぞって鳥瞰図を製作し、吉田初三郎氏が第一人者として後世に名を留めるきっかけとなっています。折から、鳥瞰図に対する芸術としての評価に改めて焦点を当てる動きが出てきているのに加え、京都国立博物館で「洛中洛外図屏風」などを紹介する「狩野永徳展」、大阪市立美術館で「特別展ＢＩＯＭＢＯ」が開催されるなど、屏風絵にも注目が集まっており、「平成の京阪大鳥瞰図（浪華・京・近江）」が新たなブームのきっかけになればと考えています。

※ 吉田初三郎（よしだ・はつさぶろう）
大正から昭和に活躍した鳥瞰図絵師。大胆なデフォルメや旺盛な想像力による独特の作風で一時代を築いた。

―「京阪沿線の名所図絵」―

以　上